

メディア掲載情報

媒体名	建材 Navi
掲載号	
掲載日	2009年10月号
掲載内容	当社取材記事

住まいの階段総合メーカー——カッツデンアーキテック

1枚のスチール板を折り曲げたような段板の連続するシンプルなフォルム——室内用スチール階段のスタンダード「ウェーブス」投入

カッツデンアーキテック（坂田清茂社長、本社：東京都台東区東上野2-14-1マルコーセンタービル8階）は、室内用スチール階段「Waves（ウェーブス）」の発売を開始した。シースルー直階段「オブジェア」やササrahのないフレキシブル階段「フリス」とはちがひ、スチール製段板の連続した新しい意匠のスチール製室内階段。

1枚のスチール板を連続して折り曲げた段板をササrahにのせただけの軽快なフォルムは、厚さ2.3mmのスチール板を加工した硬いイメージはなく、むしろ昇降時の安心感を充たし、柔らかさすら感じさせる意匠性を実現している。

技術上のポイントは、1枚のスチール板を曲げたような連続感のある段板のベンダー加工と、現場組立のノックダウンに対応する段板のビス結合工法が特許技術。ベンダー加工を多様することで溶接箇所を減らし、その結合部はビスが露出してデザイン性を損なわないようにしているところがシースルー階段の開発で培ったノウハウ。段板の縁はヘミング曲げ仕上げで安全性に配慮。また、段板を折り曲げて直接壁に留めることができるために、ササrah（角パイプ）は1本ですむ。こうした新たな加工技術によって、これまでのスチール階段のコストを半減することに成功。昨年、新発売されたササrahのない究極のシースルー階段「フリス」を上まわる反響があり、既存の木製階段に価格面でも競合できる室内階段のスタンダード商品として成長をとげる可能性を秘めている。

新導入のベンダー加工機を活用した機能美を備え価格競争力に優れた新商品を開発・提案する——坂田社長



スチール階段事業を中心に最近状況と新商品開発について坂田社長に聞く——

坂田 シースルー直階段「オブジェア」はハウスメーカー・ホームビルダーに「差別化」商品として提案し支持を得てきた。新築住宅着工数が100万戸を割るといわれるなかでも、室内階段は月産150台をキープしている。直階段



65%、らせん階段35%の販売比率も変わらない。ただ、ピーク時に比べると減少しており、もうひとつ壁を乗り越えなければと考えている。その際のポイントのひとつが、既存の木製階段との価格差をできるかぎり解消することにある。

新商品「ウェーブス」は、開発当初から低価格を目的にしたわけではないが、結果的にはコストパフォーマンスにすぐれたスチール製室内階段のスタンダード商品になりえる仕上がりになった。シンプルモダンデザインを基調に、階段を構成している段板、ササrah、手すりとその取付金具などのあり方に検討をくわえて、余分なエレメントを削ぎ落とした結果でもある。

03年夏のシースルー直階段「オブジェア」から昨年のササrahのないフレキシブル階段「フリス」の開発までに、室内階段の加工技術はレベルアップし、ノウハウも身に付けてきた。今回の「ウェーブス」は、新設したイタリア・SOMO社製の「ベンダー加工機」に負うところがおおきい。木製段板を使わずに、1枚のスチール板を折り曲げて隠込みが垂直に立ち上がった連続感のある意匠のスチール階段となった。立ち上がり部の視認やオリジナルデザインに応えるハンチング加工も自由に行える。本体・段板が耐火仕様であるから都心部の住宅でも採用できる。普及価格帯の住宅に採用できる室内階段として浸透させたいと考えている。

デザイン面では、シースルー階段「オブジェア」やササrahのない「フリス」、らせん階段「モデリア」とはちがって、隠込みが抜けていない。それだけ昇降時の安心感がある。斬新なデザインだけでは、すべてのユーザーを満足させることは難しい。新しいかたちと伝統的な意匠は混在するものとおもう。階段の総合メーカーとしてはバリエ

ーションを充実させる必要がある。

画期的な登木・パネル折曲一体型手すり「OLTES（オルテス）」新発売、水平荷重150kg/mを楽々クリア

新商品「ウェーブス」開発において技術上のポイントとなった新規導入の「ベンダー加工機」は、階段事業とならぶ中核事業「手すり」開発にも活かされた。アルミ手すりでは考えられない、折曲一体型手すり「OLTES（オルテス）」である。手すりは、支柱と登木・パネルで構成されるが、「オルテス」は、1枚のスチール板を折り曲げて登木とパネルを一体成形した画期的な手すりである。

手すりパネル下部を取付金具で床にボルト固定するだけの簡単な工法で、支柱がないにもかかわらず、その水平荷重はB1基準150kg/mを楽々クリアする。面全体で高強度をたもつ構造にみえる。このように手すりの構造を単純化することで、大幅なコストダウンも可能になった。



アルミ手すりは、高耐熱性をセーレスポイントに幅広くつかわれている。事実、カッツデンアーキテックの代表的なベランダ手すり「KDライン」もアルミダイキャスト支柱やアルミパネルを採用している。これに対して「オルテス」は、ステンレス鋼以上の耐熱性をもつとされる高耐熱スチール鋼板「ZAM」を採用し、耐熱性への不安を一掃する。

支柱と格子パネルから成る機能本位のアルミ手すりは、簡単な加工設備で生産できるうえに、オリジナル性を打ち出しにくい商品のため、どうしても低価格競争に陥りがらだ。そうしたボリューム向けの手すりとしての条件を備えている。

このベンダー加工技術のポリカーボネート板への応用も進んでいる。ポリカーボネート板を射出成型ではなく、ベンダー加工で成形するという新発想である。オリジナル性と価格競争力を兼ね備えた画期的な手すりの誕生。当面の狙いも、「室内用手すり」（坂田社長）におく。

KATZDEN ARCHITECT

WAVES 誕生!!

ローコストなノックダウン階段

資料請求はコチラ! ☎0120-76-3552

大好評! 商品も資料もすぐのロード

<http://kdat.jp>

カッツデンアーキテック株式会社

東京本社・階段事業部
TEL:03-5812-2295 FAX:03-5812-2297

大阪営業所 / TEL:06-6345-2415(R) FAX:06-6345-2416

名古屋営業所 / TEL:052-505-1266(R) FAX:052-505-1277

北関東営業所 / TEL:0495-76-1311 FAX:0495-76-4251